



コロンボ日本人学校 学校便り

# アーユ・ボーワン

平成24年5月17日 発行 No. 2

失敗を恐れずチャレンジする子 世界一楽しい学校

## 「入水」

校長 黒澤 秀美

先月27日「プール開き」を行いました。常夏の国スリランカにおいては、ほぼ1年中水泳が出来るので「今更何でプール開き？」と言う気持ちもほんの少しありましたが、改めてこれから水泳の授業開始するという意識付けの意味で、大切な時間だったと思います。

外国で生活していて、無い物、出来ない事・ものをいくら悔やみ羨んでも仕方のないこと、それより、ここにあるもの、ここでしかできないこと・もの、を大事にし大いに生かすことが重要ですが、その点「水泳」や、「英会話」などは、ここに与えられた素晴らしい環境のひとつです。その与えられた条件を大いに生かし、しっかり



学んで、しっかり力を付けてほしいと思います。

学校では、水泳の指導に当たって、事前に計画や準備を行います。その中で飛び交う文書の中に「入水」という文字が時々出てきます。そんな時私はいつも、「大変申し訳ないんだけど、この『入水』という文字を『水に入るとき』

『水に入れるとき』と言うふう書き直してくれませんか」と担当者をお願いしています。

「入水」は、水泳の指導書や実技の解説書の中にもいくつか出てきます。決して間違った使い方ではないのですが「入水」は「じゅすい」とも読み、個人的にはとても不吉で嫌いな、いやなことを意味する文字です。

スポーツの世界では、よく選手が「<sup>げん</sup>験を担ぐ」などと言うことを聞きますが、学校教育の現場で「迷信」や、「<sup>げん</sup>験を担ぐ」というようなことは、必ずしもふさわしいことであるとは思いません。しかし、児童生徒ひとりひとりの安全と健やかな成長を願う気持ちから、少しでも心に引っかかる嫌な物や嫌な言葉は、出来るなら遠ざけたいと思う、私の個人的な気持ちからそうしてきました。

いずれにしても、青空の下、恵まれた環境中で、子ども達がのびのびと力一杯、水泳を楽しみ、力をつけてくれることを願っています。

